

姿見せる弥生のリアル

青谷上寺地遺跡 地元高校生が発掘体験



弥生から古墳時代のものとみられる土器や炭を掘り当てる
高校生＝14日、鳥取市青谷町青谷の国史跡青谷上寺地遺跡

弥生時代の集落跡が眠る鳥取市青谷町の国史跡青谷上寺地遺跡で14日、青谷高の2年生7人が発掘を体験した。県職員から説明を受けて少しずつ土器を掘り起こし、郷土史や当時の暮らしぶりをひもとく研究に理解を深めた。

同校は2018年度から授業「青谷学」の一環で発掘体験に取り組んでいる。県とつとり弥生の王国推進課の門脇隆志文化財主事は遺跡の時代背景や、面をそろえて掘り進める発掘作業の基本を解説した。発掘したのは地表から地下2層の調査区で、当時入り海に面しており青谷地区

の交易で栄えていたとされる遺跡中心域の北端。生徒はスコップや竹べらで約1時間かけて粘土質の土を丁寧に削り掘っていった。弥生時代末期から古墳時代の出土品と推定される白や赤の土器の破片、炭を次々と発掘。珍しい炭化米と虫の

羽も発見した。

森本瑠奈さん(17)は「土器の破片は右より軽く白っぽい。発見できてすっきりしなかった。丁寧な作業のおかげで少しずつ歴史が解明されていくことを学べた」と話した。(松本妙子)

【本社HPに動画】